

平成 31（令和元）年度自己評価結果公表シート

社会福祉法人 徳友会
取石認定こども園

1、本園の教育目標

心身共に健やかに、心豊かでたくましく生きる子どもを育てる
◎健康な子 ◎思いやりのある子 ◎考える子

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・本園の教育・保育の全体計画、指導計画の再確認を行い、内容を検討し、自己評価・自己点検を実施することにより、教職員自ら客観的に自園を見る目を養い、教育・保育内容の改善、施設の改善、に取り組む。
- ・研修等を通じ、教職員の専門性・資質を向上し、教育・保育に反映する。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育・保育の全体計画の編成・実施に関して、教職員間の共通の理解をはかる。	本園の教育・保育の全体計画の再確認や見直しを通じて理解を深め、園長・副園長・教職員でねらいをたて、教育・保育に反映させている。
教育・保育の全体計画・子どもの実態等を基に、指導計画を作成する。	教育・保育の全体計画を基に、学年毎に指導計画を作成し、教育・保育に反映させる。 課題を学年毎に園長と話し合い、子どもの実態に即した内容になるよう加筆・訂正を行う。
子どもの実態を的確につかみ、具体的に手立てを講じ教育・保育を進める。	教職員は日々教育・保育記録を参考にし、子どもの実態を把握し、月案・週案・日案の作成に反映させる。
教職員の資質、教育向上のために、研修等に積極的に参加する。	園外の研修に積極的に参加している。（年間研修参加延べ人数121名）全員が参加できない場合は、職員会議等において伝達し、共有化を図るようにする。 また、学期毎の職員会議に加え、各行事の反省会や月案・週案・保健会議・給食会議で気付いたことを話し合い、教職員一人一人の資質の向上につなげる。
行事を通して、自ら工夫したり、友達と協力したりすることの喜び・大切さを感じ、達成感を味わう。	自ら工夫したり、友達と協力したりする喜び・大切さを感じられる教育・保育環境を準備するとともに、子どもたちの主体性を尊重しながら、十分に見守る。
定期的に各クラスの運営成果と課題を報告し、全職員が把握する。	各クラスで月・週の目標を定め、達成状況を報告しあうとともに、様々なケースでの検討会も実施し、保育場面で柔軟に対応できるよう話し合いをすすめる。
子育て支援の充実。	一時預かり事業を実施し、保護者の急な用事等に対応する。 園庭開放、すくすく広場（親子教室）、フリースペース、小児科医による乳幼児健康相談・講座などを実施した。

防災・安全対策の充実。	火災避難訓練、地震避難訓練、防犯不審者対応訓練のいずれかを月1回実施し、防火、防災、防犯意識の啓発を図った。 また高石警察署及び高石市土木課の協力のもと、交通安全教室を実施し、交通ルールの理解を深めた。
園だよりやお便りを通して、こども園の情報を発信する	園の教育方針や取り組み内容を、園だよりや各種お便りを通して情報発信するとともに、よい子ネット等を通じて電子媒体でも提供するよう努めた。
小学校や地域との連携について	感染症予防のため取石小学校との交流事業は中止したものの、頻繁に情報交換を行い、連携を図った。また地元老人ホームへの慰問を行うとともに、だんじり祭りなど地元伝統行事にふれあう機会を持ち、地域との交流を深めた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>教育・保育の全体計画の再確認・見直し、諸々の会議、行事毎の反省会を通じ、教育・保育の取り組むべき課題と園の方針を、全職員が理解を深めることができた。</p> <p>また、それぞれ教職員が自己評価し、取組状況を報告し合う事を通じ、各々の課題を具体的に確認することができた。</p> <p>園外研修にも積極的に参加し、教職員一人一人の資質の向上を図り、専門性を高めることができた。</p>

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員のより一層の資質・専門性の向上	教職員の資質・専門性の維持をはかると共に職員会議・研修等へ積極的に参加し、より一層の資質・専門性の向上につなげ、教育・保育に反映させる。
教職員としての基本姿勢を周知徹底	全教職員がよく理解できていることではあるが、今一度各々が再確認し、教育・保育に努める。
教育・保育の全体計画・指導計画の編成	子ども達により良い教育を提供するために、現状の教育・保育の全体計画・指導計画に満足せず、子どもの実態に即し、加筆・訂正を行う。

6、学校関係者の評価

特に指摘する事項もなく、適切に運営されていると認められる。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に園運営されていると認められた。
